

令和3年度第1回（第10期第7回）さいたま市社会教育委員会議 会議録

○開催日時：令和3年7月13日（火）10時00分～11時30分

○開催場所：ときわ会館3階 第2会議室

○出席者名：【委員】若原 幸範議長、坂口 緑副議長、石田 玲子委員、
市橋 大委員、井上 久雄委員、岡野 育広委員、
加藤 恒委員、加藤 美幸委員、桑原 静委員、
引間 成子委員、村山 和弘委員

【事務局】（生涯学習部）千葉 裕

（生涯学習振興課）山本 高弘、竹居 秀子、石田 悦子
久松 丈記、清宮 雅貴、高野 未紗

（生涯学習総合センター）曾根 啓佑

（資料サービス課）尾崎 尚子

○欠席者名：河井 尚委員、丹 能成委員、林 弘樹委員、亘理 史子委員

○公開・非公開の別：公開

○傍聴人の数：なし

1 開会

2 報告

前回会議の概要について説明した。意見等は特になし。

3 議事

(1) 令和3年度 社会教育関係団体補助金について

令和3年度の社会教育関係団体補助金について、資料1に基づき説明し、委員の承認を得た。

【質疑応答】

<加藤美幸委員>

オンライン環境整備費とはどのようなものか。

また、大会参加費増大の理由が知りたい。

<岡野委員（PTA協議会）>

オンライン環境整備費はオンライン会議を開催するための環境構築と、PTA協議会内のセミナーを会員に動画配信するための機材整備に使用した。

大会参加費の増大は、本年度の研究大会開催都市が遠方になったことに伴う交通費によるものである。

<井上委員>

予算を見ると補助金だけでは賄えず特別事業積立金を使用しているように見えるが、市からの補助金を増やすことはあるか。

<事務局>

今回提出した予算書は、PTA協議会全体の予算から補助の対象となるものを抜き出したものとなっている。

市補助金は事業の2分の1まで出せるので理論上増額することはできるが、財政状況等を踏まえ、例年同額で御理解をいただいている。

(2) ①さいたま市生涯学習ビジョンについて

②さいたま市公民館ビジョンについて

③さいたま市図書館ビジョンについて

各ビジョンについて、事務局から説明した。

【質疑応答】

<桑原委員>

公民館ビジョンについて、公民館職員へのヒアリングとアンケートの収集とはどのようなものなのかを知りたい。

<事務局>

ヒアリングとアンケートの収集は2年前に実施し、生涯学習ビジョン策定の際の「言葉のシャワー」、「言葉のスクラム」の走りとなったものである。

公民館の業務が貸館的なニーズと主催事業に圧迫され、地域との綿密な関係を築くことが難しくなっているという課題を持ち、単純にサービスを提供する側と提供される側ではなく、地域の皆様と共に課題を解決していく姿勢を共有し、公民館ビジョンの策定に活用した。

(3) 令和3年度 生涯学習フェスティバルについて

生涯学習フェスティバルについて、資料2に基づき事務局から説明した。

【質疑応答】

<村山委員>

市民が触れる広報媒体によって周知の時期にラグが生じることについて。

また、スポーツ協会としても広報に協力したいが、いかがか。

<事務局>

基調講演とワークショップの申込期間を考慮することで、市民が触れる広報媒体によって不利益が生じないようにしたい。

広報協力については是非お願いしたい。

<村山委員>

11月7日イベント開催で記者発表が10月下旬とあるが、報道機関での記事化までの期間を考えると時期が遅いのではないか。

<事務局>

報道機関の記者にイベント当日取材をしてもらうことを想定した時期設定であった。

これとは別に早い時期に市民向けの広報として記者発表を二度行えるかなど、改めて検討したい。

<加藤美幸委員>

青少年宇宙科学館での単独イベントではなく、公民館や図書館で行うイベントを協賛事業とするのはいかがか。ワークショップも5講座のみならず各公民館で行うなど、全市を巻き込んだイベントとしてはいかがか。

基調講演についてだが、候補に挙がっている講師から複数呼びしてトークするシンポジウムのような形にするのはいかがか。

また、「生涯学習ビジョン等の解説」は堅苦しいイメージがあるので、市民が参加したいと思えるようなタイトルや形で行うようお願いしたい。

<事務局>

施設と連携して事業を行うことについては積極的に検討したい。青少年宇宙科学館でのワークショップについては、基調講演の参加者が帰りがけに少し覗いていくような形を想定している。

基調講演については候補からお一人をお呼びする形であり、予算の問題があるため複数の講師をお呼びするのは難しいと御理解いただきたい。

「生涯学習ビジョン等の解説」は堅苦しい形になるのは本市としても望むところではないので、市民の方に身近に感じていただけるよう工夫したい。

<石田委員>

ワークショップ講師に謝礼はでるのか。

<事務局>

講師一人あたり5千円から1万円程度で想定している。

【第10期社会教育委員会議の終了にあたって】

<石田委員>

完成した生涯学習ビジョンが配布されているところを実際に公民館の窓口で目にし、嬉しく思った。公民館ビジョンと図書館ビジョンもどこに行けば手に入るのか教えていただきたい。

<市橋委員>

公募委員という形で市民の代表としてこの場に着かせていただき、大変勉強になる機会が多かった。また、事務局は本当に大変な作業をされお疲れ様でした。

<井上委員>

これらのビジョンを製作するにあたっての、皆様方の御労苦に敬服する。生涯学習ビジョンの表紙を見ると、芝川と新都心が写っており、その向こうに見えるのは武甲山ではないかと思うが、埼玉県の象徴的な山が写っていて大変良いと思った。

<岡野委員>

完成したビジョンがこれから先の財産になり、そして子どもたちが成長していく上での励みになって欲しい。そうすれば、さいたま市が目指す日本一の教育都市になること

も実現していくと思う。

<加藤恒委員>

つながるということが私にとって3期通じてのテーマだった。ビジョンの中にも行政、スタッフがパイプ役となりコーディネートしていくと明記されていることを非常にうれしく思う。今回のビジョンの作成にあたっては現場の意見を吸い上げられているため、職員も理念を理解しておられるので、今後ビジョンを実現していくことに期待している。

<加藤美幸委員>

委員の意見も取り入れていただき、見やすく、とても良いものができたと思っている。特に職員の生の声を取り入れてつくられたことがすばらしい。今後、是非さいたま市の生涯学習で活かしていただきたい。

<村山委員>

オールさいたまを意識して、部局にこだわることなく連携し生涯学習を成功させていていただきたい。スポーツ協会としても協力できることはしていきたい。

<引間委員>

コロナ禍によって図書館も公民館もすべて使えなくなってしまい、そのありがたさを本当にしみじみと思った。ただ知識を学ぶだけではなくて、生涯学習は心の拠り所だと改めて感じた。

<桑原委員>

素晴らしいビジョンができたので、その次は目標値と、その目標に向かっていかに事業化して計画していくかだと思う。今回のフェスティバルも数値目標があれば、それをクリアするための策が出てくると思う。私も何か協力できることがあれば協力させていただきたい。

<坂口副議長>

2年前にビジョンを作るというお話を伺ったときから、ほぼ白紙の状態から作り上げることを経験させていただき、こういうふうにする自治体もあるのだと驚いた。最終的にはわかりやすい、伝わる言葉で完成させることができ、裏で事務に関わった方は御苦労なさったと思う。

教育の世界は今止まってしまっていて、集まるのが悪いことのような状況が1年半続いてきた。学びの成果の大きな部分が削がれたまま、今にきている。まちづくりと学びは直結するし、人はそうやってまちの中で育てられている、そのような実感がこのさいたま市のビジョンから伝わって欲しいと思っている。こういう厳しい状況ではあるが、フェスティバル、或いはビジョンの広報から、人々がもう1回つながろうという呼びかけるきっかけにしていきたい。

<若原議長>

本当に積極的な意見を活発に発言いただき、大変良い第10期の間となったと思う。行政側がたたき台を持ってきてただ議論するのではなく、本当にイチから、現場の職員や公民館の利用者から丁寧に声を拾い上げて作り上げていくという形で、そのプロセスも非常に意義のあるものだった。

今後はそれを実行、現実化していく段階にあり、どうしていくのかが次の勝負ど

ころとなるため、その点を第11期では議論していただきたい。

以上